

指すだけでなく、本学のホームページで「（財）結核予防会結核研究所のホームページ」を紹介するなどして、結核に対するさらなる理解と指導に努める必要がある。

また、性行為による感染症についても、結核と同じように病気を正しく理解させ、感染を予防する知識も身につけさせるため、関係サイトの紹介をしている。

将来の改善・改革に向けた方策

学生の健康保持および増進に関して、平成14年度から禁煙エリアの拡大を進めているが、将来は建物のなかには全て禁煙にすることも検討している。

（２）生活相談担当部署の活動上の有効性

現状の説明

医務室のなかに学生相談室（カウンセリングルーム）を設け、学生が入室しやすいように配慮している。カウンセラーは、週4日交替であり、専任（男性の教職課程助教授）と非常勤の女性を配置している。学生の予約については、電話も含め医務室の看護師も対応している。カウンセリングまでは必要ないが、女性の看護師に話を聞いてもらうことで、心を落ち着けようとして、医務室を訪れる学生も年々増えてきている。学生課では、そのような学生のために相談室の内の1室を提供し、リラックスできる場所を確保している。また、専任カウンセラーが「カウンセリングだより」を発行して、心身面でのアドバイスをしている。これはインターネット上からも閲覧可能になっている。

点検・評価 長所と問題点

医務室は、満足できる体制になっている。ただカウンセリングを希望する学生が微増傾向にあるため、現在の2人体制で対応できるかどうか、今後の課題として検討しなければならない。

将来の改善・改革に向けた方策

医務室長を中心として、カウンセリングも含めた現在の医務室体制が、十分に機能しているかどうか点検し、改善点があれば早急に実行に移す必要がある。

3 就職指導

（１）学生の進路選択に関わる指導の適切性

現状の説明

学生の進路選択に関わる指導に関し、1，2年生に対しては、直接的な進路選択指導と言うよりは、社会に出て人と接していく上で重要となるコミュニケーション能力、多様な表現能力の育成に重点をおいている。1，2年生は少人数のゼミ（基礎ゼミ：学生10名程度を1名の専任教員が担当）で、与えられた課題についての調査、発表、討論等を通して、コミュニケーション能力を養う。基礎ゼミはカリキュラム化され、その進め方は担当する教員にまかされている。

求職環境が厳しくなっている面もあるが、職業選択に対する学生意識の希薄化が進み、卒業しても定職に就かない割合が増加してきている。このような問題に対処すべく、本学においても、低学年から自分の進路について考えることを支援するため、平成14年度に2年生の基礎ゼミの1コマを充て、外部講師による講演会（題目：大学生活の過ごし方と卒業後の進路を考える）を実施した。

3，4年生の進路選択に関わる指導に関しては、就職委員会、就職課のスタッフが相互に連携して、就職の準備段階から内定に至るまで、きめ細かく指導している。各種の就職支援行事や、個別相談の詳細については「（4）学生への就職ガイダンスの実施状況とその適切性」で詳しく述べる。

正規のカリキュラムとは別に、学生のキャリアアップを狙いとして、資格取得講座（スコーラ）を開講している。現在開講しているスコーラには、会計学スコーラ、コンピュータスコーラ、マルチメディアスコーラ、英会話スコーラがある。

本学では平成13年度に教職課程が設置され、平成16年度末から卒業生を送り出す。このため、教職を希望する学生の就職支援体制をどの様に構築するかが大きな課題である。また、本学では留学生を受け入れており、留学生の就職支援体制の構築も重要である。

点検・評価 **長所と問題点**

低学年から将来の進路を見据えて、勉強や準備をするための指導は、今後ますます重要になってくる。平成14年度は2年生を対象として、学生に将来の進路を考えるトリガを与えるための講演会を1回実施した。一歩前へ踏み出したことは評価できるが、必ずしも十分とはいえない。また、単に学生に講演を聞かせるだけでなく、講演会で得たことをベースに、学生相互が討論して、自分の将来について深く考えさせることも重要である。このためには基礎ゼミとの連携が必要である。

将来の進路は、所属する学科によって大きく影響を受ける。今年度は、学科毎に独自のテーマを決めて、外部講師による講演会を実施することとした。

キャリアアップを目指して、専門の資格取得を希望する学生は年々増加している。これを支援するためスコーラ活動を行っているが、教員のボランティアに依存していることもあり、必ずしも十分な成果を上げているとは言えない。

教職を希望する学生や留学生の就職支援体制を早急に構築する必要があるが、取り組みが十分に進んでいないのが現状である。

将来の改善・改革に向けた方策

求人サイドからすると、学生には高い専門能力やコミュニケーション能力を要求することは当然としても、人と人のつながりで成り立っている社会で活動していくためには、挨拶・言葉遣いなどの基本的なマナーや、辛抱強さなども要求される。本来、このような能力はサークル活動等を通して先輩から自然に教わるものであったが、十分機能しているとはいえない。大学としてマナー教育についても取り組

む必要がある。さらに低学年からのキャリア指導を考えるとキャリアセンタ化についても検討が必要であろう。

専門能力の育成として資格取得を支援するスクーラの充実が大学としての課題である。このためには、資格取得に関係する専門科目のカリキュラム化が必要である。なお、資格取得に関係する専門科目については、他学科履修を可能とする配慮も必要となる。

就職希望者や留学生の進路選択への対応については、今後強化していく必要がある。

(2) 就職担当部署の活動上の有効性

現状の説明

本学の就職支援体制は、就職支援活動の基本方針などを審議する「就職委員会」、学生に対する就職支援サービスを行う「就職課」及び卒業研究指導で学生と接する機会の多い「ゼミ教員」により組織化されている。

「就職委員会」は、就職委員長1名、4つの学科から選出された就職委員8名（各学科当たり2名）及び就職課長1名より構成される。月に1回の割合で委員会を開催し、主に、就職支援活動の基本方針の策定を行う。各学科から選出された就職委員は、学科会議等を通して、就職支援行事に対する学科としての要望・意見を吸い上げることや、就職委員会で決定したことを各学科のゼミ教員に周知するなどの役割も担っている。

就職課の専任スタッフは、課長1名、課長補佐1名、課員1名、就職課参与1名からなる。就職に関する各種ガイダンスの実施、就職に関する情報の提供（掲示板やホームページを介して情報提供）、企業の開拓、学生からの就職に対する相談への対応など直接的な就職支援活動を行っている。

「ゼミ教員」はゼミ所属学生に対し、就職支援行事の周知や参加指導、就職に関する個別相談等を行っている。本学で開講されているゼミ数は約60ゼミで、ゼミ当たりの平均学生数は約10名である。

点検・評価 長所と問題点

就職課が実施する就職支援行事の一部に、就職委員も分担して参加し、出来るだけ実態を把握するように努めている。また、合宿セミナーなど就職課スタッフだけで実施するには難しい行事には積極的に参加し、相互の連携を深めている。

ゼミを通して学生に深く関わっているゼミ教員の就職指導に対する役割は大きい。一方、ゼミ教員の就職に対する理解はまちまちであり、就職指導への取り組みにも温度差がある。ゼミ教員の就職に対する理解を深めるため、平成15年10月に外部講師を招き講演会を実施した。

将来の改善・改革に向けた方策

本学では平成13年度に教職課程が設置され、平成16年度末から卒業生を送り出す。今後、教職を希望する学生や留学生への対応を強化していく必要があるが、これらについては他の事務系組織との連携が重要となる。

(3) 就職指導を行う専門のキャリアアドバイザーの配置状況

現状の説明

本学の就職指導は、就職課スタッフ、就職委員会に所属する教員、教育・研究活動を通して学生と直接関わる機会の多いゼミ担当教員（専門ゼミは必修であり、学生個人々人に対する指導・情報提供の役割をゼミ担当教員も果たしている）、三者の協力・連携体制の下で進められている。

就職指導を行う専門のキャリアアドバイザーは配置していないが、就職相談、面接指導などの日常的業務を遂行している就職課スタッフ（専任職員3名、就職課参与1名）がキャリアアドバイザー的機能を果たしている。民間企業の人事畑での長い経験を有する人材を参与に迎え、その経験を生かした相談・指導及び専任スタッフによる相談・指導を行っている。

毎年、全3年生を対象に進路登録カード（兼求職票）を作成し、進路登録カードとしての通常の記載項目以外に、個人指導に役立てる目的で個人データを蓄積している。この個人データ項目は、就職課の実施する就職支援活動への出席状況・取組み状況、日経経済常識テスト、職業適性検査、クレペリン検査、SE適正検査、SPI対策講座などのテスト結果等であり、就職課における個人面談方式での就職指導・相談の際に大いに活用している。より実践的かつ効果的な助言・指導を行うことがその狙いである。

さらに、助言・指導の内容についてもその都度、個人データとして記録に残し、内定決定に至るまでの継続的指導に役立てると同時に、主な訪問先企業（選考段階への参加）についてのデータも個人記録として残り活用している。

点検・評価 長所と問題点

就職指導を行う専門のキャリアアドバイザーは配置していないが、現有の就職課スタッフ・参与が知恵を絞りながら効果的な助言・指導を心かけている状況にある。現有の就職課スタッフの経験・ノウハウも徐々に蓄積されつつあり、キャリアアドバイザー的機能を十分とはいえないまでも担いつつある。就職課は学内の他の部署と異なり、通常のローテーションの枠内には納まりきれないキャリアが求められることが多い。その点では現有スタッフの異動がないことが幸いしている。

就職委員会との協力体制も一歩ずつではあるが強化されつつある。就職委員会所属教員（委員長、各学科2名の教員で構成）は定例学科会議などを通じて、就職課主催行事への学生参加の促進、就職活動状況の把握、可能な限りのゼミ単位での助言・指導を要請する役割を担っているが、ゼミ担当教員の就職に対する温度差があ

って担当教員との協力・連携体制が十二分に機能しているとはいえない現状にある。

将来の改善・改革に向けた方策

平成9年の就職協定廃止以降、就職活動が早期化したこと、求人側の求める人材要件が高度化していく一方で、学生の就職意識が希薄化しているという状況、就労形態の多様化とフリーターの増加傾向など基本的条件が大きく変わりつつある。このような状況の中でキャリアアドバイザー機能の強化が大学に求められている。現在、担当スタッフの個人的な努力と知恵に依存している体制を見直し、就職課スタッフのキャリア育成研修の強化が求められている。さらに、現在の参与1名体制から複数の体制に強化することも必要となろう。

スタッフとは異なる目線からアドバイスができる学生アドバイザー制度の新設・強化も今後求められてこよう。現在、就職支援活動行事の一環として行われている4年生による就職活動体験報告会、OBによるセミナー以外に、気楽に相談できる学生アドバイザー制度を新設できれば助言・指導機能が多面的かつ効果的に強化されよう。

このような組織強化に対応した施設、スペースの拡充が強く求められている。

(4) 学生への就職ガイダンスの実施状況とその適切性

現状の説明

就職活動の早期化に伴い就職支援行事も3年前期からスタートするようになった。年々難しくなっている公務員試験の対策講座及び公務員対策模擬テスト（6月）、夏休み前の就職ガイダンス（外部講師による3回シリーズ、6月～7月）、一般常識テスト（7月）とテスト対策ならびに現在の就職環境とそれに対する今後の活動準備までの解説などを実施している。

就職支援行事の継続性を確保し、かつゼミの中でのリーダー層を育成する目的で平成13年度から学外の企業研修所を利用した二泊三日の就職合宿を実施している。この合宿で、外部講師による講演、自己分析と自己アピール、グループディスカッションとグループ発表などを実施している。その後、報告書を作成し、ゼミ担当教員へ配布しており、ゼミナリスト同士による意識啓発、学生相互間の情報交換の活性化を図ることを目的としている。

3年後期に入り、再確認の意味をこめた就職ガイダンスを後期開始直後に設定し、できるだけ多くの学生の意識啓発を狙っている。その後は、就職セミナーの3回シリーズ（①企業の人事担当者による講演、企業の求める人物像などについて ②4年生による就職活動体験報告会 ③実際に仕事に関わっているOBによる現実の仕事内容、苦労話などの体験報告会）、就職適性検査、クレペリン検査、SE適性検査、SPI対策のための模擬テストと解説講座、エントリーシート作成のポイントと学生によるシート作成講座（添削後、本人に郵送）、就職活動直前対策としての就職ガイダンス（12月）、面接対策講座（外部講師による話し方の基本について

解説と模擬面接），１月には学内に企業の人事担当者を招聘して学内企業説明会を開催している。

また，平成１４年度には基礎ゼミⅡ（対象学生は２年生）を活用した進路選択と充実した学生生活についての外部講師による講演会を開催して，有意義な学生生活の送りかたについて考える機会を設けた。平成１５年度も同趣旨の講演会を実施する。

点検・評価 長所と問題点

就職活動の早期化に対応した措置を講じ始めてきたことや就職活動の流れに即した支援行事（自己分析，自己アピール，一般常識テスト対策，職種・業界・企業研究，エントリーシートの作成，面接対策等）は一通り整備されてきている。

ここ数年大きな問題になっているのが，一通り支援事業を整備してきたにも関わらず学生の利用状況（出席状況，学生のモチベーションなど）がほぼ頭打ちである点である。この状況を打破すべく出席状況の教授会への報告，ゼミ担当教員からゼミ所属学生への情報の周知徹底への呼びかけと協力依頼などを行っているが，改善への明確な兆しはまだ見えてこないのが現状である。現在の自己と対峙し，将来に向けた展望を抱きにくい現代学生気質と相関性があることは否めないが，そこをブレークスルーする方策が必要になっている。

将来の改善・改革に向けた方策

現在の企業が求める人材要件には３階層の要件があるように思われる。一つは，マナー＆エチケット，言葉づかいを含めたコミュニケーション能力，生きる力などがある。二つ目は，一般常識を含めた基礎能力，三つ目は専門的な力量である。大学という性格上，教育の力点は第二，第三の能力育成に置かれてくることはやむをえないが，今後，第一の能力育成にも留意した取り組みの一層の強化も求められてこよう。この点は，就職という限られた視点からではなく，全学的な連携も必要になっている。例えば，就職支援行事のカリキュラム化と外部講師の活用，インターンシップの活用など多角的な取り組みが求められてこよう。

（５）就職活動の早期化に対する対応

現状の説明

就職活動は年々早期化，長期化の傾向にある。特殊な業界を除くと，現在，就職活動は，概ね，３年生の１月頃から始まっている。これに対応し，就職活動の準備を３年生の１２月頃までに終えるように，就職支援行事を計画し，実施している。これについては，前述のとおりである。

３年生からの就職支援行事を効率的に受けるためには，その前，すなわち，１，２年生の職業意識を醸成させておくことが必要となる。本学では，低学年を対象とした就職支援活動は今まで実施してこなかったが，昨年からの取り組みを開始した。具体的には，２年生の基礎ゼミの時間を利用して，「大学生活の過ごし方と卒業後

の進路を考える」と題して講演会を実施した。併せて、低学年からの就職支援活動に取り組んでいる大学を視察し、支援行事の実態や効果等の調査を行った。

点検・評価 長所と問題点

昨年、2年生を対象として、自分の進路を考えさせるテーマで講演会を実施した。学生の反応は、概ね良好であった。本年度は、この流れを定着させる必要がある。また、学生をどのように教育して社会に送り出すかは、学科によって異なる。低学年からの職業意識の醸成に関しても、学科の状況を踏まえて行う必要がある。このような観点から、本年度は学科としてテーマを設定し、講演会を実施することとした。

将来の改善・改革に向けた方策

低学年からの職業意識を醸成させるためには、1～2回の講演会では十分でなく、カリキュラム化して体系的に学ばせる必要がある。本学での適用を具体化するため、平成15年4月から、各学科の就職委員1名からなる低学年からの進路指導のカリキュラム化検討グループを発足させ、検討を開始した。現在、平成17年度のカリキュラム改正に向け、検討を進めている。

(6) 就職統計データの整備と活用の状況

現状の説明

現役学生に対する就職データの提供は、現在、求人情報一覧表（大きくくぐり方による企業名）を就職課の外の廊下に掲示して情報提供している。より細かな求人情報は50音順、受付順、業種別の三種類のファイルとして就職課内に用意して学生の利用に供している。さらに、今年度からインターネット（学内LAN）にこれまでの優良企業情報、求人情報、就職支援行事などの情報に加えて、さらに、企業説明会情報、合同企業説明会情報、就職活動体験記などを掲載してより使い勝手のよい情報提供を心がけている。

OB・OG訪問への便宜を図るための卒業生情報については、開架式でいつでも見れる卒業生就職先一覧、卒業生在職者名簿をファイルの形で用意している。また、これらの卒業生情報も可能な限りインターネットで見られるようにしたいと考えている。

また、父母への就職情報提供はキャンパスナウ（年4回発行）、後援会総会（6月、年一回）及び父母懇親会（10月）の席上で提供している。

卒業生の進路・就職状況については、学内で提供すると同時に学校法人東京農業大学年報にも毎年掲載している。掲載データは、進路状況、産業別就職状況、職業別就職状況、自営者内訳、従業員規模別就職状況、地域別就職状況になっている。Uターン希望の学生への情報提供を兼ねて地方入試の開催に合わせて地方企業の開拓・情報収集を行い地方出身者に対する進路指導の一助にしている。

点検・評価 長所と問題点

インターネットを介して就職に関する有益な情報を提供しているが、セキュリティの面で、学外からのアクセスには制約を設けている。現在、学外からアクセス可能な情報は、合同企業説明会情報、就職支援行事、就職活動体験記のみである。就職活動中の学生が最も必要とする優良企業情報、求人情報、企業説明会情報へのアクセスは学内からに限定されており、リアルタイムの情報提供に問題がある。

将来の改善・改革に向けた方策

優良企業情報、求人情報、企業説明会情報についても、学外からアクセスできるように、システムを改善していく必要がある。これにより、就職活動中の学生にとって、自宅から有益な情報の取得が可能となり、就職活動を効率的に進めることが出来る。

4 課外活動

(1) 学生の課外活動に対して大学として組織的に行っている指導、支援の有効性

現状の説明

本学が学生の課外活動に対して、大学として組織的に行なっている指導には、おむね次のものがある。

- ・留学生を小学校や高等学校からの依頼で派遣し、生徒たちと交流させている。
(年に4～5回)
- ・留学生に対するお茶とお花の指導をボランティアの地域住民に依頼している。
- ・学園祭において来場者を増やし、学生の士気の高揚を図るため、一昨年からJR等の駅前における街頭宣伝に音楽団体を同行させ、演奏とビラ配付を実施している。そのほか宣伝活動の一環として、地域の祭やイベントに参加し、学園祭の宣伝を行っている。また近隣住民に呼びかけ、学園祭の野外ステージ及びフリーマーケットにも参加してもらっている。さらに介護施設のバザーにボランティアで学園祭の実行委員を派遣するなどして、できるかぎり地域との一体化に努めている。
- ・近隣住民の主催するコンサートへの出演依頼に応じて、音楽団体を参加させ、盆踊り大会や地域の祭のさいには、「よさこいソーラン同好会」を出演させている。昨年度、千葉商工会議所から千葉駅前「ワゴンギャラリー」への参加要請があり、課外活動団体及びゼミを参加させた。
- ・毎年12月にスポーツ大会を実施している。休講措置をとらず、雨天時の対応、授業なども考慮して、屋内でできる「バレーボール大会」、加えて一昨年からは学生会館の多目的ホールを使って「卓球大会」も実施している。それぞれの大会とも、学生が運営するように指導している。昨年の参加チームは、男女合せてバレーボールが19チーム、卓球が15チームであった。